

岡山県感染症週報 2025年第44週 (10月27日～11月2日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』を発令中です

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

◆2025年 第44週 (10/27～11/2) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況 (第44週届出分)

第43週 2類感染症 結核 1名 (70代 男)

5類感染症 アメーバ赤痢 1名 (60代 男)

梅毒 1名 (50代 男)

百日咳 1名 (小学生 女)

第44週 2類感染症 結核 2名 (60代 男1、70代 女1)

3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2名 (O157:幼児 女1、20代 女1)

4類感染症 日本紅斑熱 1名 (60代 男)

レプトスピラ症 1名 (30代 男)

5類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名 (90代 男)

侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (70代 男)

梅毒 1名 (20代 女)

百日咳 8名 (乳児 男1、小学生 男1・女1、20代 男1・女1、

40代 女2、50代 男1)

効果的な場面でのマスク着用!



■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数: ARI定点50、小児科定点28、眼科定点12、STD定点18、基幹定点5

© 岡山県「ももっち」

○インフルエンザは、県全体で226名 (定点あたり4.52人) の報告がありました。

○新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で122名 (定点あたり2.44人) の報告がありました。

○急性呼吸器感染症 (ARI) は、県全体で3,354名 (定点あたり67.08人) の報告がありました。

○伝染性紅斑の報告数が多くなっています。

1. インフルエンザは、県全体で226名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり2.88 → 4.52人)。岡山県は10月30日に「インフルエンザ注意報」を発令し、広く注意を呼びかけています。詳しくは「インフルエンザ週報」および岡山県感染症情報センターホームページ『2025/26年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!』をご覧ください。
2. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)は、県全体で122名の報告があり、前週と同数でした (定点あたり2.44 → 2.44人)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 情報』をご覧ください。
3. 急性呼吸器感染症 (ARI)は、県全体で3,354名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり56.00 → 67.08人)。詳しくは、「☆急性呼吸器感染症 (ARI) 情報」および岡山県感染症情報センターホームページ『急性呼吸器感染症 (ARI) 情報』をご覧ください。
4. 腸管出血性大腸菌感染症は、2025年第44週に2名の報告があり、2025年の累計報告数は73名となりました (2024年の同時期: 58名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!』をご覧ください。
5. 日本紅斑熱は、2025年第44週に1名の報告があり、2025年の累計報告数は18名となりました (2024年の同時期: 18名)。ダニが媒介する感染症として、他に重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)やつつが虫病などがあります。これらは、病原体を保有するツツガムシまたはマダニに刺咬されることで感染します。また、SFTSに関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等についてはコラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう!」をご覧ください。
6. 梅毒は、2025年第44週に1名の報告があり、2025年の累計報告数は212名となりました (2024年の同時期: 300名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『梅毒について』をご覧ください。

7. 百日咳は、2025年第44週に8名の報告があり、2025年の累計報告数は全数把握による統計を開始した2018年以降最多の2,047名となりました。予防法は、予防接種のほか、感染者との接触を避ける、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。感染時は『咳エチケット』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。また、風邪と見分けがつかないまま、感染を広げる可能性があるため、咳が続く場合は早めに医療機関を受診しましょう。
8. 伝染性紅斑は、県全体で29名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり1.11→1.04人）。詳しくは「今週の注目感染症」をご覧ください。

流行の推移

疾病名	定点あたり 報告数		推移	疾病名	定点あたり 報告数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	2.88	4.52	↑	突発性発しん	0.25	0.18	↓
COVID-19	2.44	2.44	↔	ヘルパンギーナ	0.11	0.04	↓
急性呼吸器感染症(ARI)	56.00	67.08	↑	流行性耳下腺炎	0.00	0.07	↑
RSウイルス感染症	2.00	1.57	↓	急性出血性結膜炎	0.00	0.00	↔
咽頭結膜熱	0.14	0.07	↓	流行性角結膜炎	0.42	0.17	↓
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.61	1.04	↑	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	↔
感染性胃腸炎	2.46	2.36	↔	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	↔
水痘	0.04	0.11	↑	マイコプラズマ肺炎	0.80	1.80	↑
手足口病	0.14	0.07	↓	クラミジア肺炎	0.00	0.00	↔
伝染性紅斑	1.11	1.04	↔	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	↔

【記号の説明】前週からの推移

↑ : 増加

↔ : ほぼ増減なし

↓ : 減少

増加・減少 : 前週比10%以上の増減

新型コロナワクチンの定期接種(高齢者対象)について

令和6年度と同様に、令和7年度も10月から新型コロナワクチン定期接種が実施されます。

新型コロナワクチンの接種は、個人の重症化予防により重症者を減らすことを目的とし、定期接種として実施しています。

接種対象者

- ・65歳以上の方
- ・60~64歳で、心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

接種時期

令和7年10月1日～令和8年3月31日の間で市町村が設定する期間

接種費用

原則有料

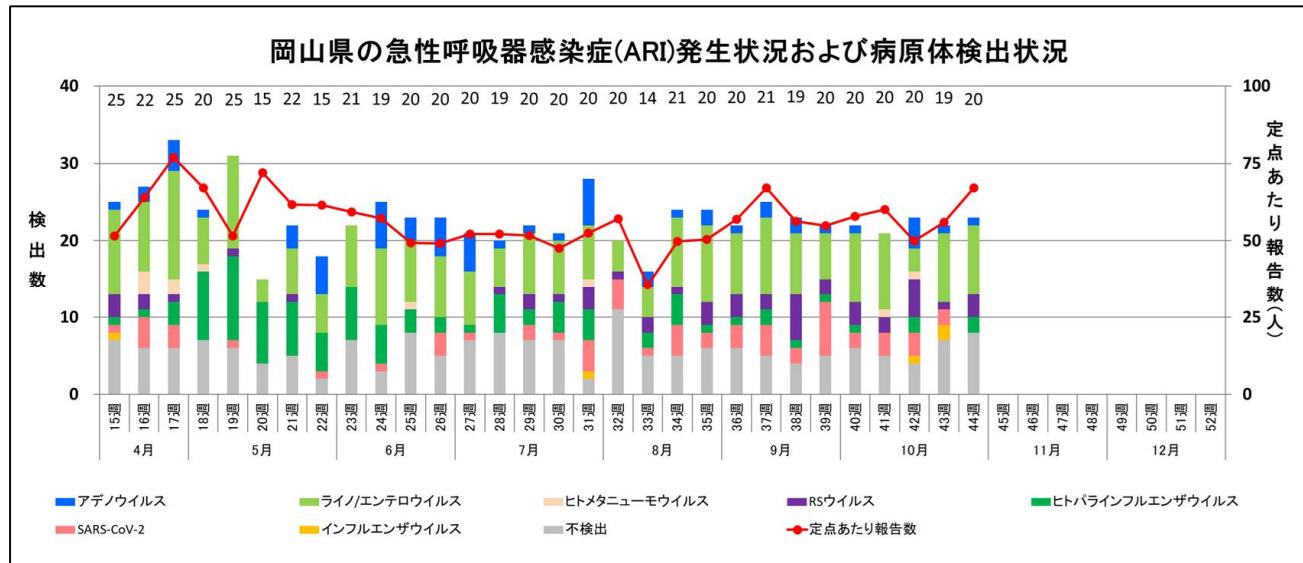
※定期接種の自己負担額は市町村によって異なります。詳細は市町村の予防接種担当課にお問い合わせください。



©岡山県「ももっち・うらっち」

★急性呼吸器感染症（ARI）情報

1. 岡山県の流行状況（第44週（10/27～11/2））



※定点把握対象となった第15週から表示しています。

※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。

※1検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。

※グラフ上部の数字は検体数を示しています。

※急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関数：50 医療機関（内科定点22、小児科定点28）

※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点2、小児科定点3）

急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で3,354名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり56.00→67.08人）。地域別では、備中地域（127.40人）、岡山市（76.39人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

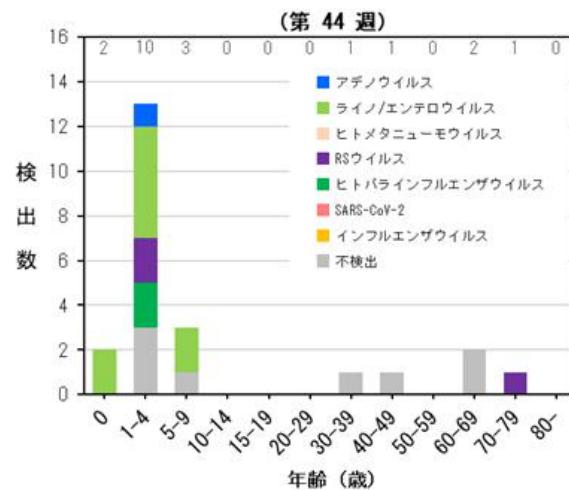
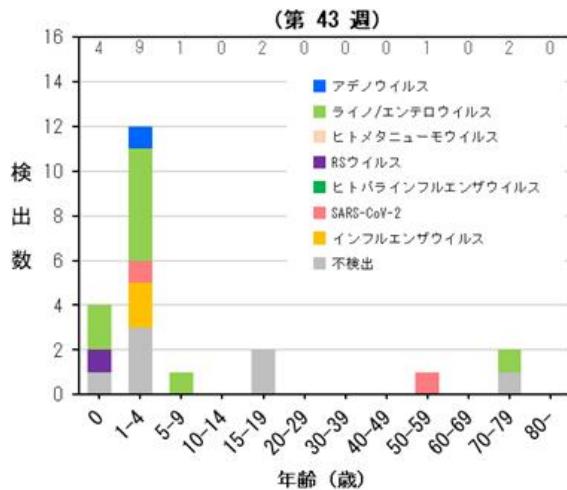
2025年第43週および第44週に採取された検体から検出された病原体は30株でした（詳細は下表参照）。

【第43週および第44週 岡山県環境保健センターにおける病原体検出状況】

	第43週	第44週	計*
検体数（うち不検出数）	19(7)	20(8)	39(15)
インフルエンザウイルス	2	0	2
SARS-CoV-2	2	0	2
ヒトパラインフルエンザウイルス	0	2	2
RSウイルス	1	3	4
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0
ライノ/エンテロウイルス	9	9	18
アデノウイルス	1	1	2
計	15	15	30

* 重複あり

○年齢別病原体検出状況



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。

※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。

※グラフ上部の数字は各年齢別の検体数を示しています。

※急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体定点医療機関数: 5 医療機関 (内科定点 2、小児科定点 3)

2. 新型コロナウイルスゲノム解析結果

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析（岡山県感染症情報センター）](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について（国立健康危機管理研究機構）](#)

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

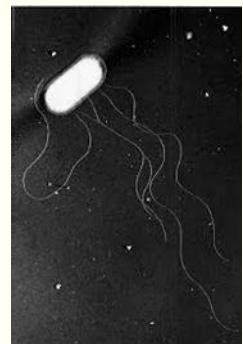
岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10°C以下で保存しましょう。
(生食用鮮魚介類は、4°C以下で保存するよう努めましょう。)



0157 の電子顕微鏡画像
(国立健康危機管理研究機構)

[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

今週の注目感染症

★伝染性紅斑

● 感染経路および症状

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 による感染症で、小児を中心にみられる流行性発しん性疾患です。両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれます。感染経路は患者の咳などによる飛沫感染や接触感染です。

約10~20日の潜伏期間の後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がります。多くの場合、頬に発しんが出現在する7~10日くらい前に、微熱や風邪の症状などが見られ、この時期にウイルスの排出が最も多くなりますが、発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。その後これらの発しんは一週間程度で消失しますが、中には長引いたり、発しんが再び出現することがあります。

成人では関節痛を伴う関節炎や頭痛などの症状が見られることもありますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然治癒します。

伝染性紅斑（厚生労働省）

伝染性紅斑（国立健康危機管理研究機構）

●治療・予防方法

伝染性紅斑には特別な治療法はなく、対症療法が行われます。

ヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出ている時期にはほとんど排出されていません。そのため、予防法は初期症状である風邪症状がある方との接触を避ける、うがいや手洗い、手指の消毒を行うなどです。風邪症状のある人は『咳エチケット』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。

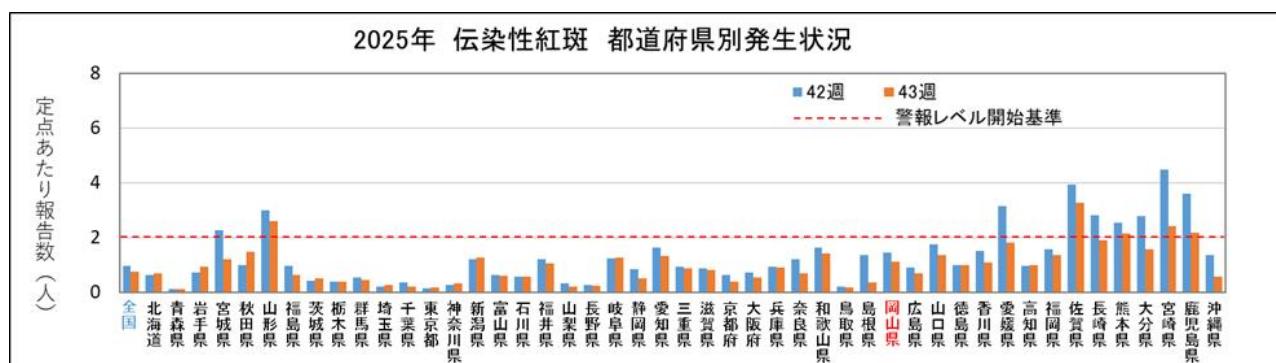
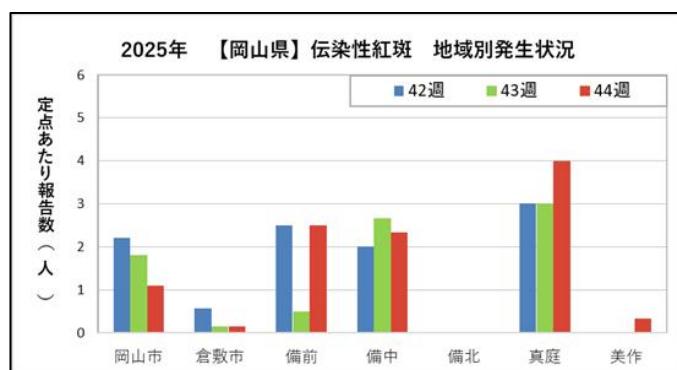
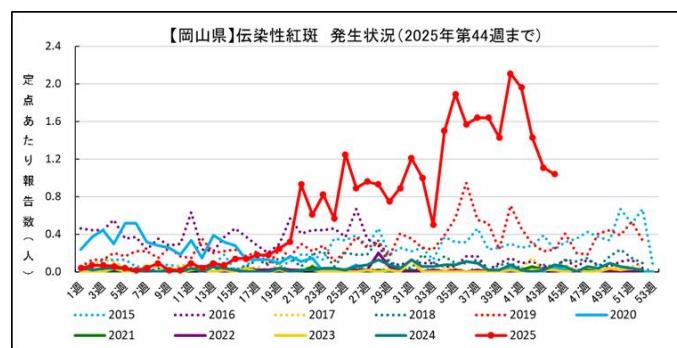
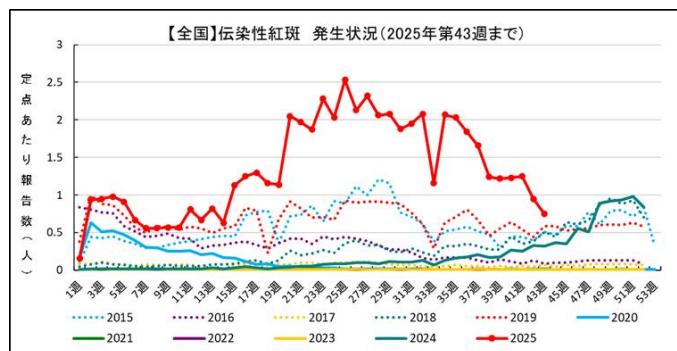
●妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまでヒトパルボウイルスB19に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出る等、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は医療機関に相談しましょう。また、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、症状がない場合も妊娠検診の際に医師に伝えてください。

●発生状況

全国の第43週の定点あたり報告数は第42週から減少しました（0.95→0.75人）。都道府県別では、佐賀県（3.25人）、山形県（2.58人）、宮崎県（2.40人）の順に定点あたり報告数が多く、5県で警報レベルの2.00人を越えています。

岡山県の第44週の定点あたり報告数は前週とほぼ同数でした（1.11→1.04人）。地域別では、真庭地域（4.00人）、備前地域（2.50人）、備中地域（2.33人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。



ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、
日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)※、つつが虫病などを引き起こす
病原体を保有しているものがいます。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの
忌避を效能としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。

体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。



吸血後の
フトケチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

★★くわしくは、こちらをご覧ください★★

- ⇒ [日本紅斑熱](#) (国立健康危機管理研究機構)
- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\) に関する Q&A](#) (厚生労働省)
- ⇒ [つつが虫病](#) (国立健康危機管理研究機構)
- ⇒ [マダニ対策、今できること](#) (国立健康危機管理研究機構)

インフルエンザ週報 2025年 第44週 (10月27日～11月2日)

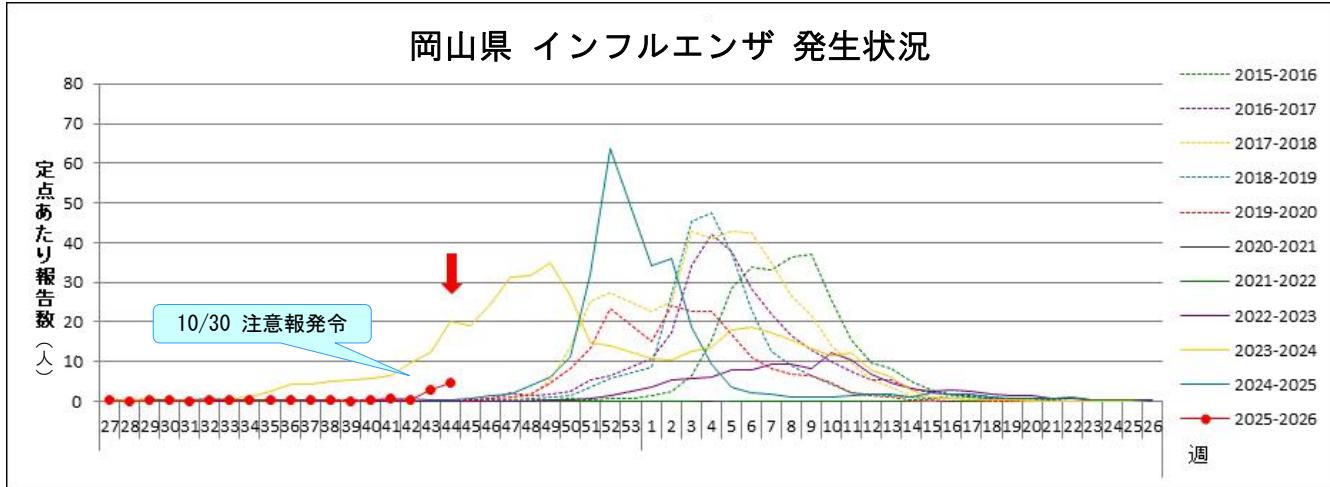
岡山県は『インフルエンザ注意報』を発令中です

岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で226名（定点あたり4.52人）の報告がありました（50定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が16施設ありました。
- インフルエンザによる入院患者4名の報告がありました。

【第45週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が29施設ありました（11月4日～5日）。



インフルエンザは、県全体で226名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり2.88→4.52人）。岡山県は10月30日に「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、備中地域（15.60人）で最も定点あたり報告数が多くなっています。

県内の発生状況に注意するとともに、基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。また、予防接種を予定されている方は、早めに済ませましょう。

◆インフルエンザの流行拡大が懸念されます！感染に注意しましょう◆

【予防と対策】

○基本的な感染防止対策

- ・場面に応じたマスクの着用、手洗い、手指消毒の実施
- ・室内の適度な湿度の設定、定期的な空気の入れ換え
- ・高齢者や基礎疾患のある方などは、人混みを避ける

○健康的な日常生活

- ・十分な休養、バランスのとれた食事

○あらかじめの備え

- ・早めのインフルエンザワクチン接種

【発熱等の症状が出た時は】

○早めに医療機関を受診する

○周りの方へうつさないように「咳エチケット」を！

○水分を十分にとり、安静にして休養をとる

⇒ 詳細は岡山県ホームページ [『インフルエンザ対策について』](#)をご覧ください。

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況(人)		推移	地域名	発生状況(人)		推移
岡山県全体	患者数	226		備 中	患者数	78	
	定点あたり	4.52			定点あたり	15.60	
岡山市	患者数	78		備 北	患者数	2	
	定点あたり	4.33			定点あたり	0.50	
倉敷市	患者数	49		真 庭	患者数	2	
	定点あたり	4.08			定点あたり	1.00	
備 前	患者数	7		美 作	患者数	10	
	定点あたり	1.75			定点あたり	2.00	

【記号の説明】前週からの推移 : 大幅な増加 : 増加 : ほぼ増減なし : 減少 : 大幅な減少

大幅 : 前週比 100%以上の増減

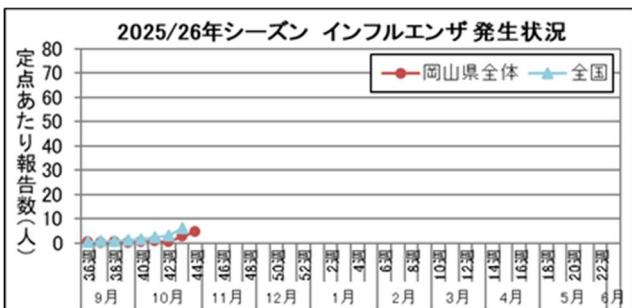
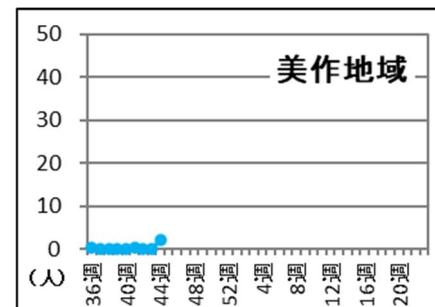
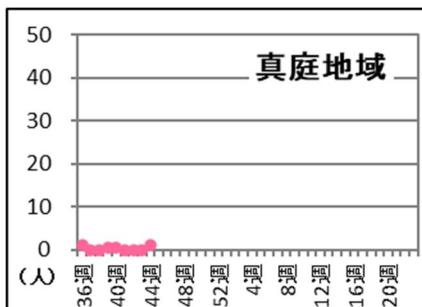
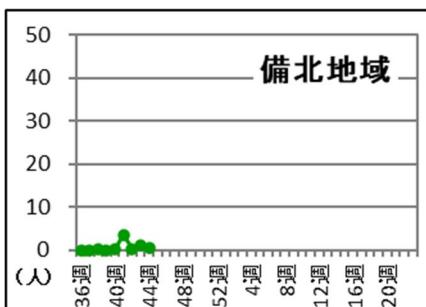
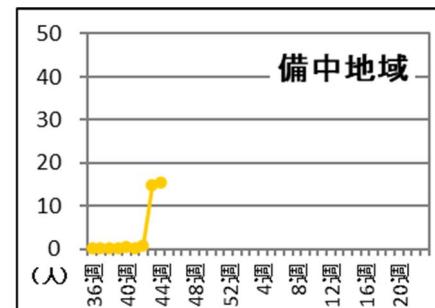
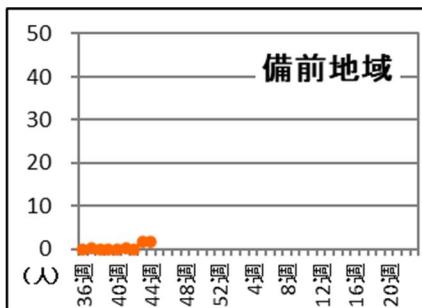
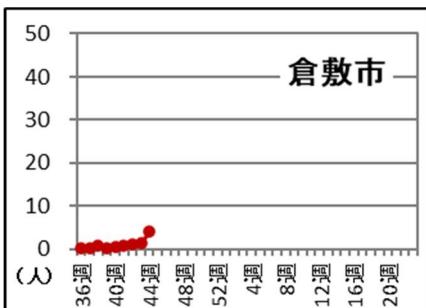
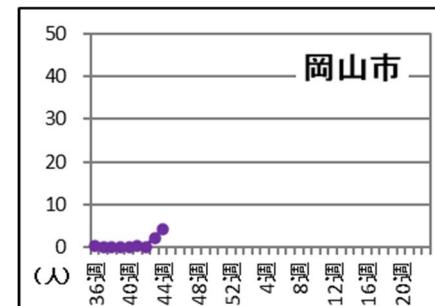
増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3	レベル2	
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		
報告なし		
基準値		
0 < 10 未満		
0		

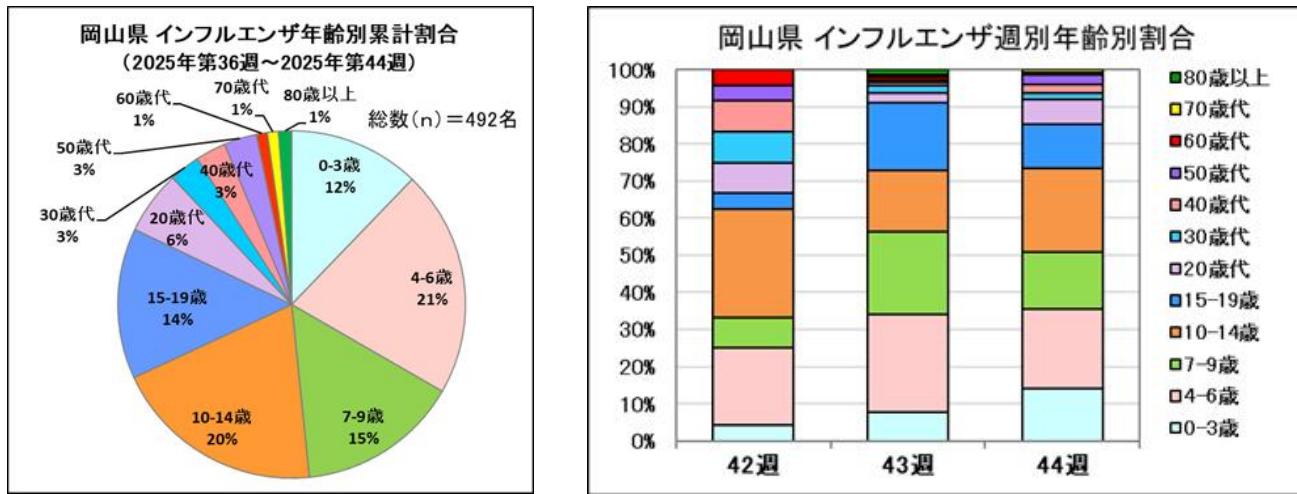


全国集計 2025年第43週(10/20~10/26)速報値によると、全国の定点あたり報告数は 6.29 人となりました。

都道府県別では、沖縄県(19.40人)、神奈川県(11.88人)、千葉県(11.82人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。44都道府県で前週の報告数から増加しました。

[インフルエンザの発生状況について\(厚生労働省\)](#)

2. 年齢別発生状況



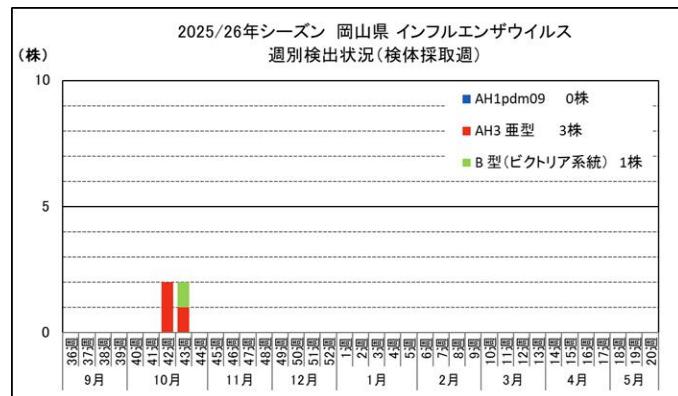
※定点医療機関は、小児科定点（28 医療機関）が内科定点（22 医療機関）に比べて多いため、報告数は小児に偏ります。

3. インフルエンザウイルス検出状況

【岡山県】

2025年第44週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは2株（詳細は下表参照）でした。

今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは4株で、AH3亜型が3株、B型（ビクトリア系統）が1株となっています。

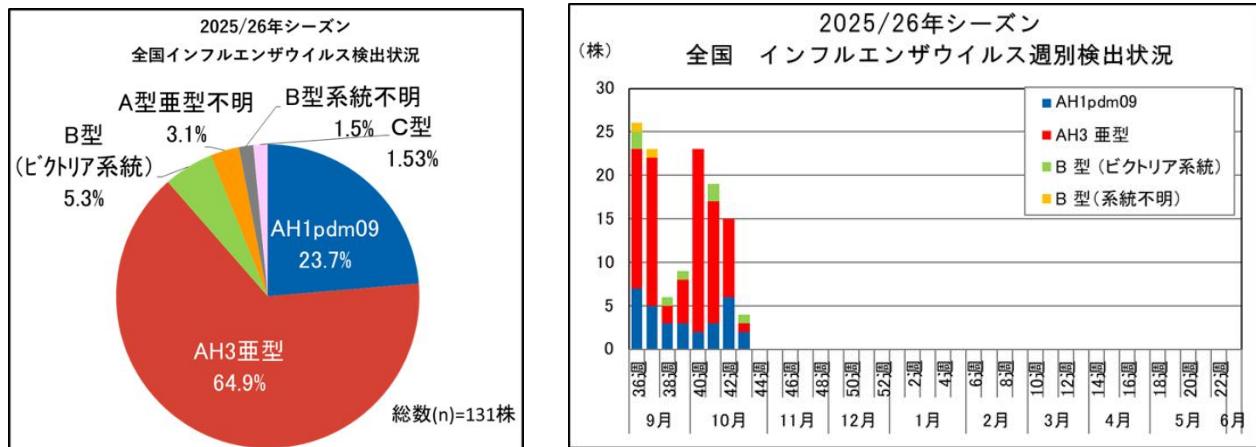


ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH3亜型	2025年第43週(10/20～10/26)	2025/10/20	岡山市	幼児	男	
インフルエンザウイルスB型						ビクトリア系統

【全国】

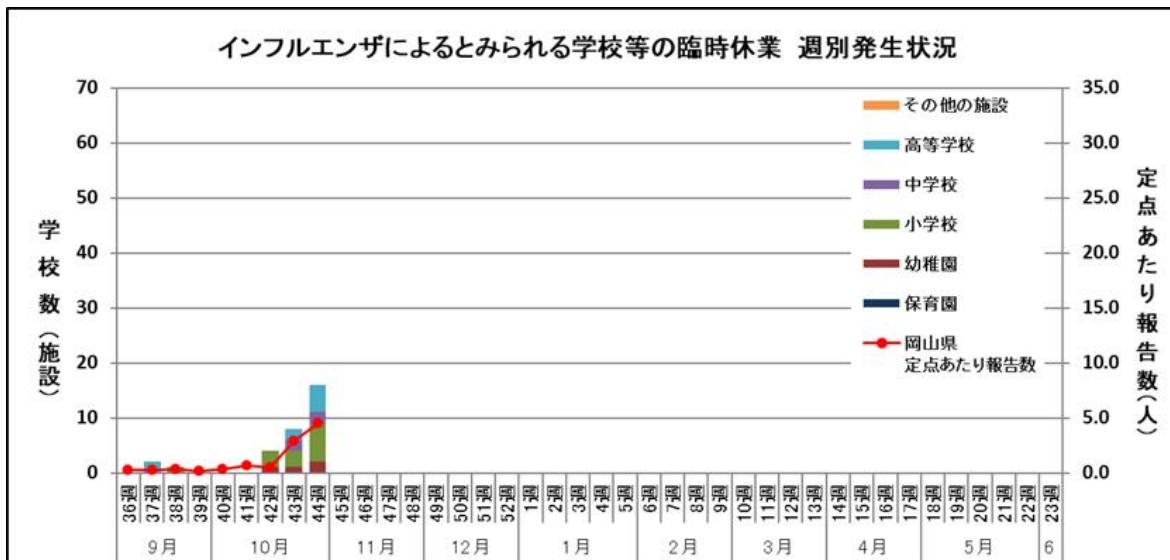
今シーズン、これまでに検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09が31株、AH3 亜型が85株、B型（ビクトリア系統）が7株、A型亜型不明が4株、B型系統不明が2株、C型が2株となっています（11月4日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立健康危機管理研究機構）](#)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、16 施設ありました。



臨時休業施設数の内訳

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
第 44 週	0	2	7	2	5	0	16
累計	0	4	14	4	9	0	31

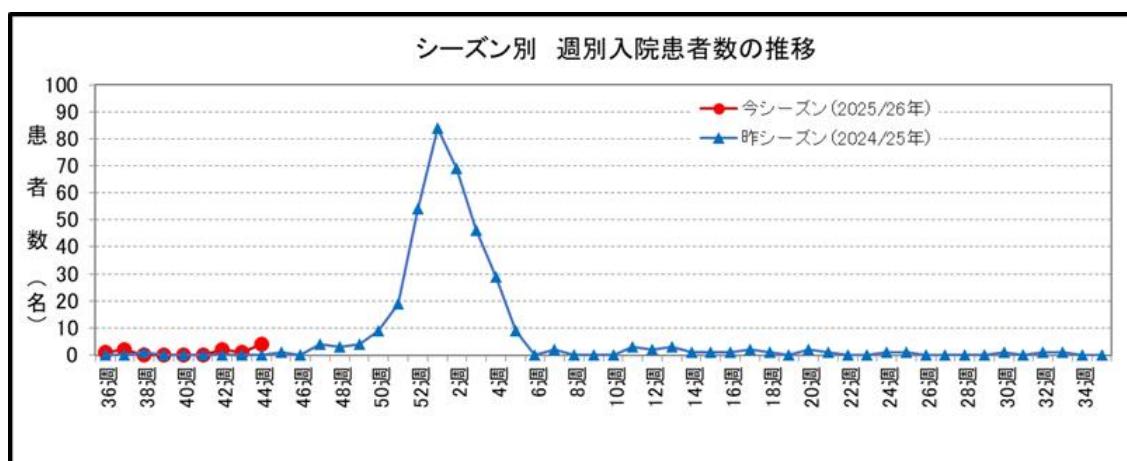
最新の臨時休業の情報については以下のホームページをご覧ください。

→ [\(R7年度シーズン\) 岡山県内の学校等におけるインフルエンザとみられる臨時休業](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、4 名の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずウトウトしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 44 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数			2								2		4
ICU 入室 *											1		1
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *													
頭部 MRI 検査(予定含) *			2										2
脳波検査(予定含) *													
いずれにも該当せず											1		1

* 重複あり

【2025 年 9 月 1 日（第 36 週）以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	1	4	2							1	2		10
ICU 入室 *											1		1
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *													
頭部 MRI 検査(予定含) *			2										2
脳波検査(予定含) *													
いずれにも該当せず	1	4								1	1		7

* 重複あり

[令和 6 年度 インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

[令和 6 年度 今シーズンのインフルエンザ総合対策について \(厚生労働省\)](#)

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	226	4.52	78	4.33	49	4.08	7	1.75	78	15.60	2	0.50	2	1.00	10	2.00
COVID-19	122	2.44	27	1.50	33	2.75	13	3.25	22	4.40	10	2.50	11	5.50	6	1.20
急性呼吸器感染症	3354	67.08	1375	76.39	794	66.17	217	54.25	637	127.40	120	30.00	45	22.50	166	33.20
RSウイルス感染症	44	1.57	13	1.30	10	1.43	9	4.50	4	1.33	—	—	3	3.00	5	1.67
咽頭結膜熱	2	0.07	—	—	—	—	1	0.50	—	—	—	—	—	—	1	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29	1.04	14	1.40	4	0.57	—	—	10	3.33	—	—	1	1.00	—	—
感染性胃腸炎	66	2.36	41	4.10	10	1.43	3	1.50	3	1.00	2	1.00	—	—	7	2.33
水痘	3	0.11	1	0.10	—	—	—	—	2	0.67	—	—	—	—	—	—
手足口病	2	0.07	1	0.10	—	—	—	—	1	0.33	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	29	1.04	11	1.10	1	0.14	5	2.50	7	2.33	—	—	4	4.00	1	0.33
突発性発しん	5	0.18	2	0.20	1	0.14	—	—	1	0.33	—	—	1	1.00	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	2	0.07	—	—	—	—	—	—	2	0.67	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	9	1.80	—	—	7	7.00	—	—	—	—	2	2.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当								
インフルエンザ	226	4.52	78	4.33	49	4.08	7	1.75	78	15.60	2	0.50	2	1.00	10	2.00
咽頭結膜熱	2	0.07	—	—	—	—	1	0.50	—	—	—	—	—	—	1	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29	1.04	14	1.40	4	0.57	—	—	10	3.33	—	—	1	1.00	—	—
感染性胃腸炎	66	2.36	41	4.10	10	1.43	3	1.50	3	1.00	2	1.00	—	—	7	2.33
水痘	3	0.11	1	0.10	—	—	—	—	2	0.67	—	—	—	—	—	—
手足口病	2	0.07	1	0.10	—	—	—	—	1	0.33	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	29	1.04	11	1.10	1	0.14	5	2.50	7	2.33	—	—	4	4.00	1	0.33
ヘルパンギーナ	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	2	0.07	—	—	—	—	—	—	2	0.67	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2025年 第44週 2025/10/27～2025/11/02)

疾病名	合計	6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	226	1	1	8	10	12	18	11	19	17	9	9	51	27	15	4	5	6	1	2	—
COVID-19	122	1	—	2	1	—	2	—	1	3	1	2	9	5	11	17	9	12	9	15	22
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～								
急性呼吸器感染症	3354	197	1403	783	363	114	84	92	67	72	56	70	53								
疾病名	合計	6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～						
RSウイルス感染症	44	7	4	22	6	3	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	2	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29	—	—	1	1	3	5	4	5	2	5	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎	66	1	8	6	4	7	5	5	2	2	5	3	12	1	5	—	—	—	—	—	—
水痘	3	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
手足口病	2	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	29	—	—	—	5	3	6	4	5	2	1	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発しん	5	—	1	3	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	2	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
疾病名	合計	6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～				
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	9	—	—	1	2	2	2	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(- : 0)

保健所別

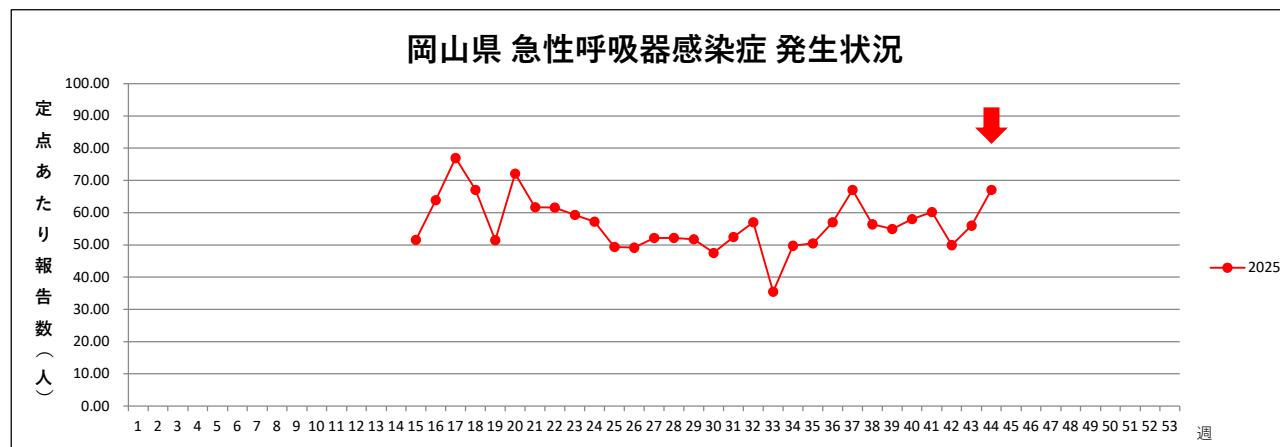
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
急性呼吸器感染症(ARI)	3,354	67.08	1,375	76.39	794	66.17	217	54.25	637	127.40	120	30.00	45	22.50	166	33.20

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-12ヶ月	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～		
	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数
急性呼吸器感染症(ARI)	3,354	197	1,403	783	363	114	84	92	67	72	56	70	53		

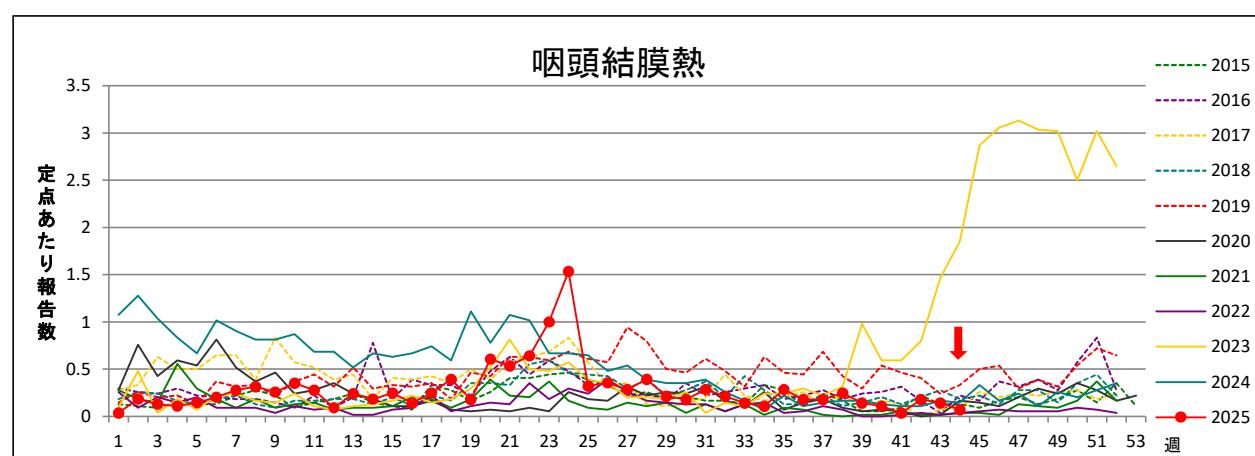
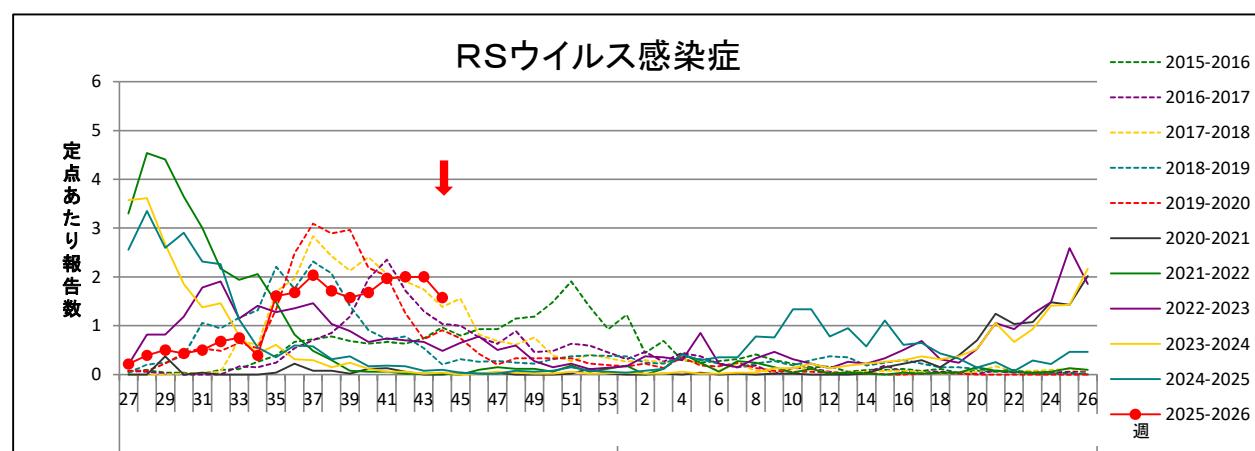
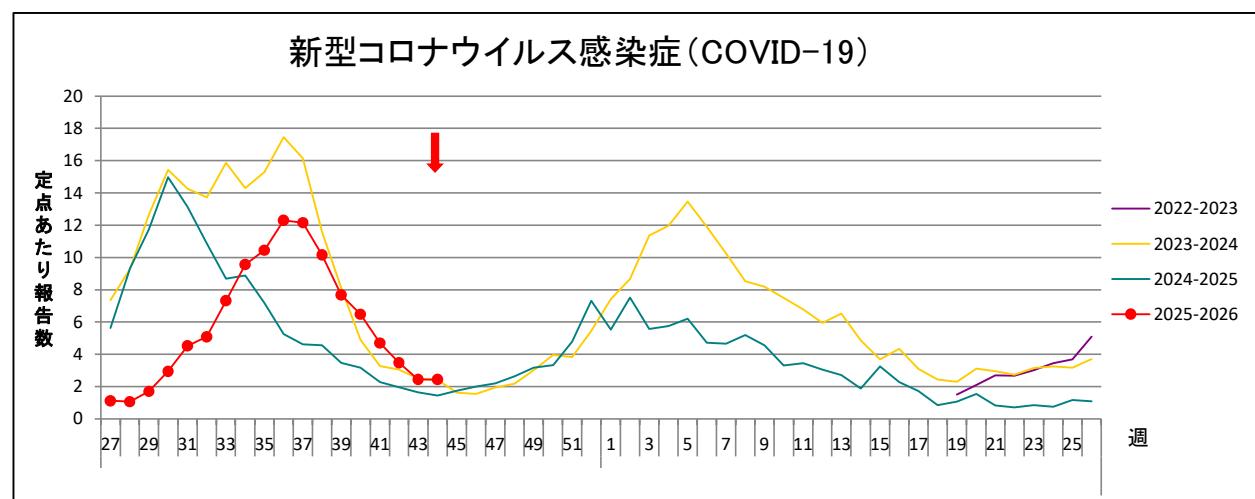
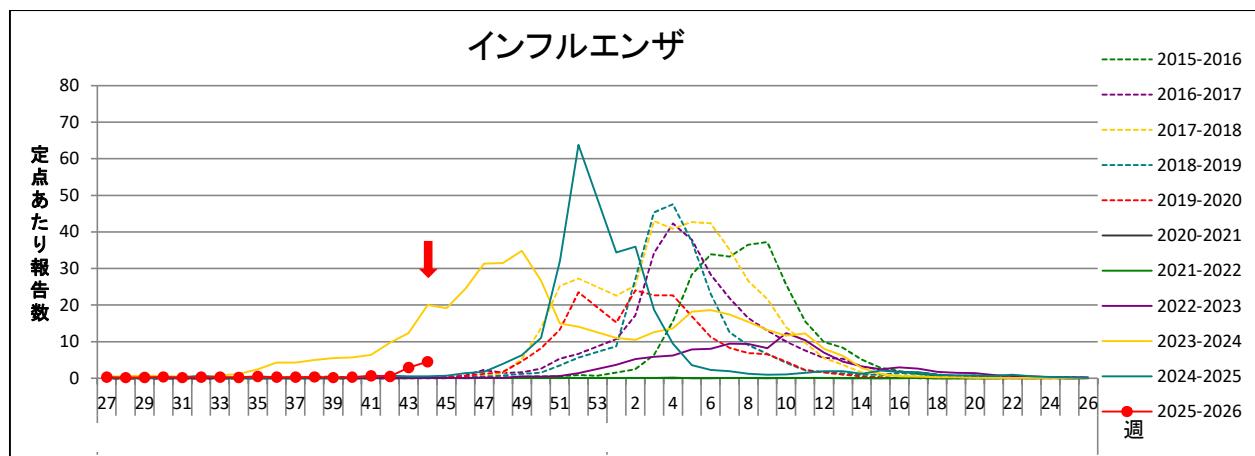
(- : 0)



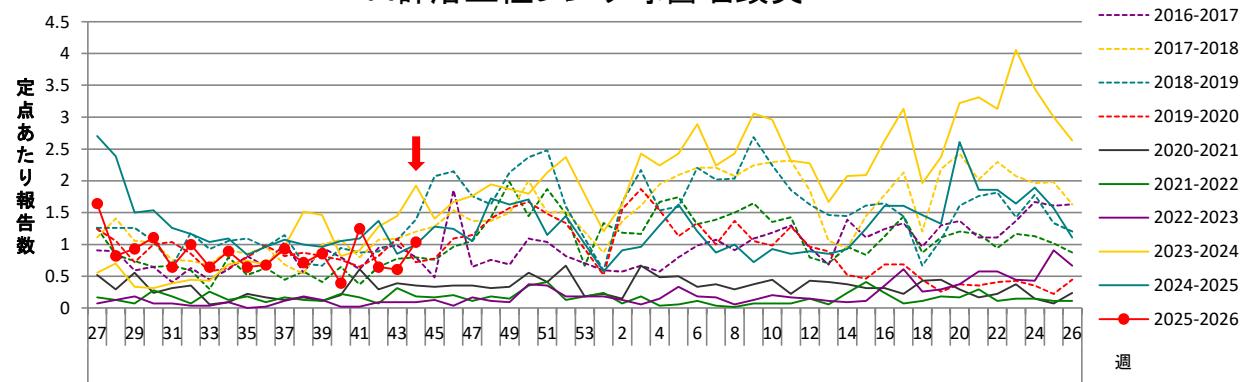
全数把握 感染症患者発生状況

2025 年 44 週

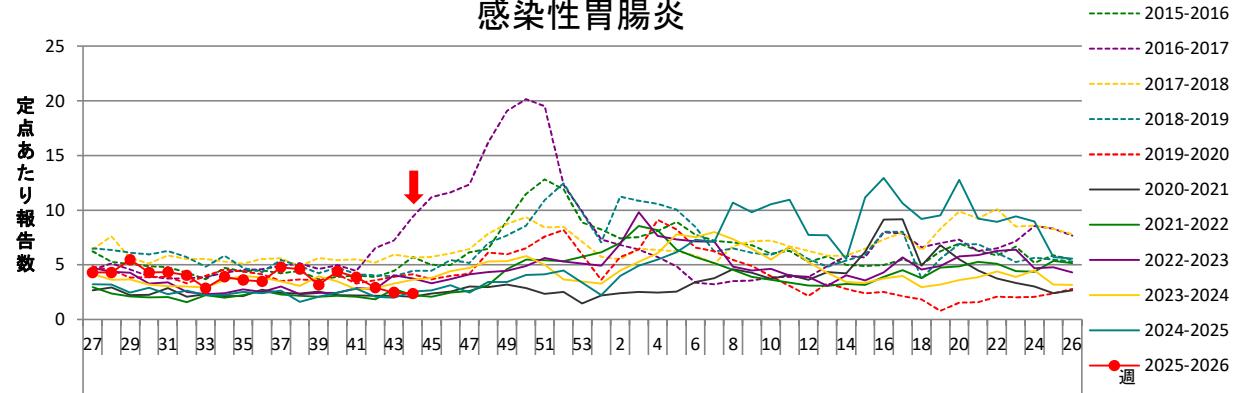
分類	疾病名	2025			2024			2025			2024			2025				
		今週	累計	昨年	今週	累計	昨年	今週	累計	昨年	今週	累計	昨年	今週	累計	昨年		
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-														
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	188	245	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-														
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	2	73	63						
	腸チフス	-	-	2	パラチフス	-	-	-										
四類	E型肝炎	-	4	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	4						
	エキノコックス症	-	-	-	エムポックス	-	-	-	黄熱	-	-	-						
	オウム病	-	-	-	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-						
	キヤサヌル森林病	-	-	-	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-						
	コクシジオイデス症	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	7	1						
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-						
	炭疽	-	-	-	チケンギニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	-						
	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-						
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	1	18	21	日本脳炎	-	-	-						
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-						
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-						
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-						
	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-						
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	52	42						
	レプトスピラ症	1	1	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-										
五類	アメーバ赤痢	-	6	10	ウイルス性肝炎	-	1	5	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	-	18	36						
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	3	急性脳炎	-	12	16	クリプトスピリジウム症	-	-	-						
	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	16	30	後天性免疫不全症候群	-	6	8						
	ジアルジア症	-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	8	13	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	3						
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	46	35	水痘(入院例に限る。)	-	6	11	先天性風しん症候群	-	-	-						
	梅毒	1	212	355	播種性クリプトコックス症	-	1	5	破傷風	-	-	-						
	パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	百日咳	8	2,047	18						
	風しん	-	-	-	麻しん	-	3	-	薬剤耐性アシнетバクター感染症	-	-	-						



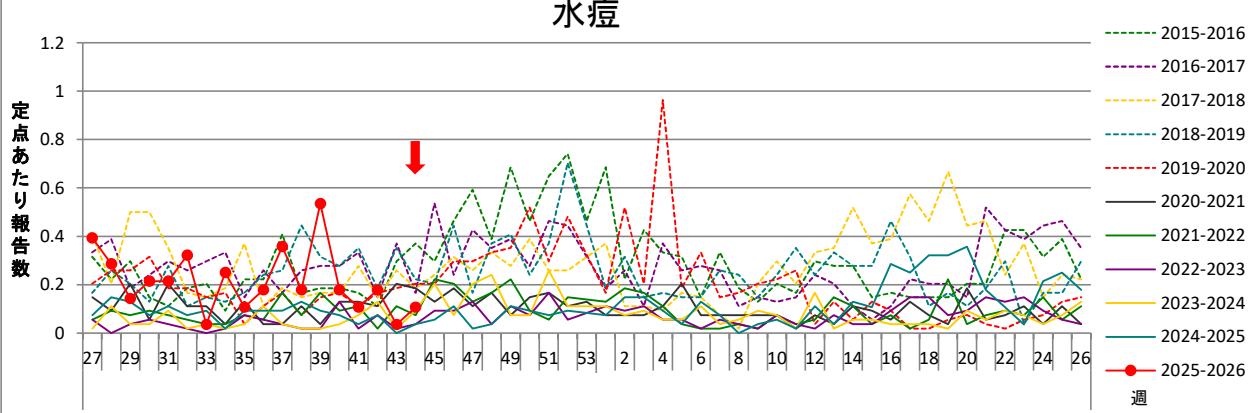
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



感染性胃腸炎



水痘



手足口病

